

商学部報

No.
180

2022 June

INDEX

- 巻頭言 01
- 学部 News 02

特集 ●●●●●●●●

専門ゼミ紹介 03



- 懸賞論文 20
- 学術情報検索 25
- 秋学期寄附講座 26
- 海外留学 27
- 学生生活・進路 29
- 学部・修士5年一貫修了制度 31
- 進学 33
- 施設紹介 35

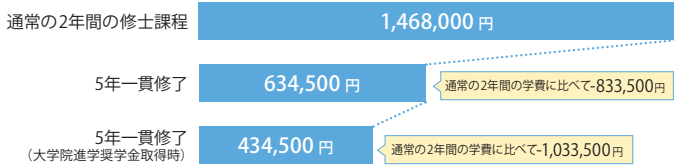


商学研究科 商学部を卒業後に推薦入学で商学研究科に進学し、学部 4 年間＋ 1 年間の最短 5 年で修士学位を取得 できる制度です。

5年一貫修了制度のメリット

- ◆学部 4 年に「＋1 年間」で修士学位を取得できる
- ◆「留学」＝「延長生(5 年生)」ではなく、「留学＋修士学位」で 5 年間の学生生活を送れる
- ◆学部からの継続指導で、研究成果を修士論文に結実させることができる
- ◆1 年間の在学中で、大学院における学費が半額で済む
- ◆推薦入学向け奨学金受給のチャンスがある
- ◆就職活動において、「早期修了」の商学系大学院出身者としてアピールできる

学費シミュレーション



5年一貫修了制度適用者になるためには

	基 準
学部在学中の成績	6 セメスター終了時点で、GPA2.60 以上（上位 25% 相当） または、4 セメスター終了時点で GPA2.70 以上（上位 20% 相当）であり、5 セメスター以降に 2 セメスター以上の留学を予定する者（休学しての留学を除く）
大学院科目先取り履修	7 セメスター以降に、大学院科目を先取り履修し 10 単位以上を修得すること ※本制度適用者は、大学院入学後 16 単位まで単位認定可能 ※学部在学中は自由科目扱い
推薦入試	推薦入試合格者 ※出願時に、指導教員承認済みの「早期修了希望届」を提出

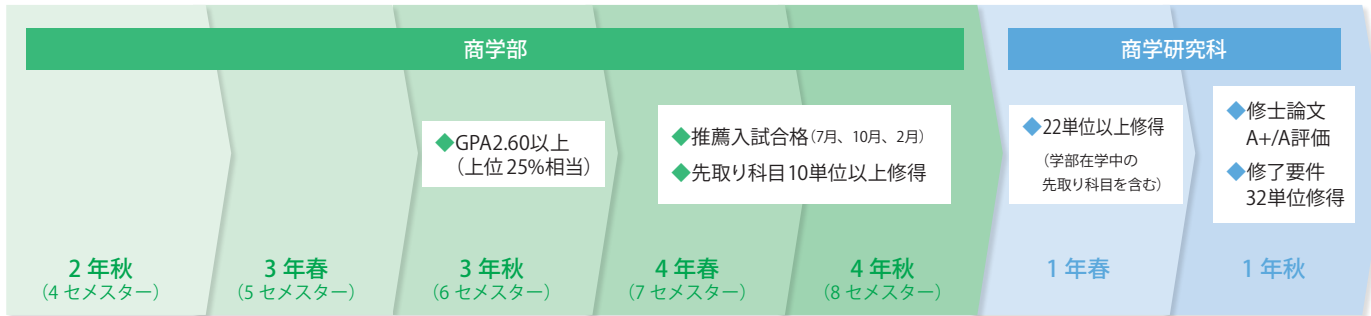
大学院進学後の条件

- ①1セメスター終了時点で修了要件単位数22単位以上修得済であること
- ②2セメスター終了時点で修了要件単位数32単位以上修得し、かつ各科目区分の修了要件を満たしていること
- ③修士論文評価がA+またはAであること

モデルケース（4 月 入学者のパターン）

出願にあたっては、ゼミ所属有無により出願時期等の条件が異なります。

一般モデル



留学モデル



※留学から帰国後、単位認定結果が 6 セメスター終了時点の GPA 基準（GPA2.60 以上（上位 25% 相当））を満たしている場合も適用対象者となります。

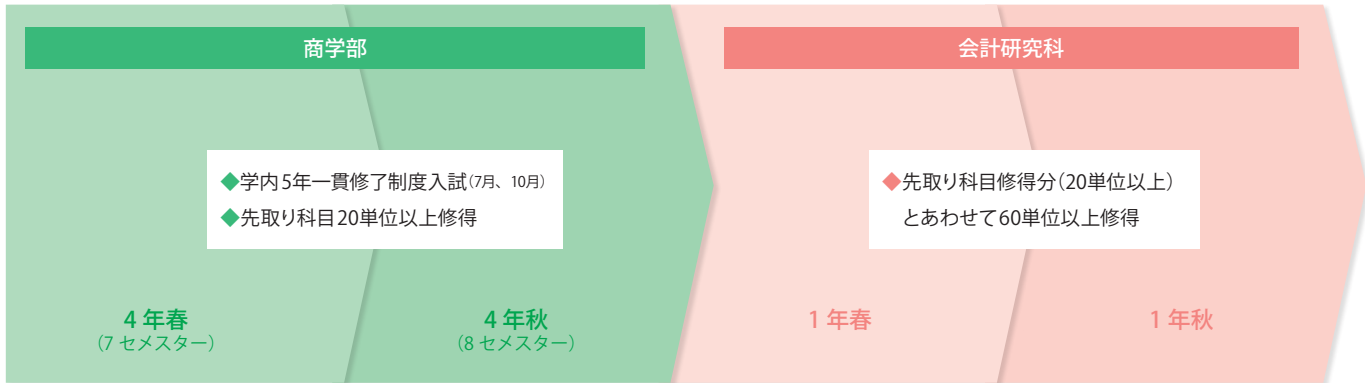
奨学金制度

入学前：[推薦入学] 奨学金

推薦入試によって商学部から商学研究科に内部進学する学生を対象とした、給付型の単年度奨学金が 2 種類あります（学部在学中のみ申請・受給が可能です）。

奨学金名	選考基準	奨学金額	採用数
寺尾巖奨学金	推薦入試最優秀合格者	（年額）30 万円（単年度）	1 名
商学部寄附講座 大学院進学奨学金	成績等により判断 （推薦入試合格者）	（年額）20 万円（単年度）	25 名

会計研究科 商学部を卒業後に、「学内 5 年一貫修了制度入試」で会計研究科に進学し、学部 4 年間＋修士 1 年間の最短 5 年間で、修士学位を取得できる制度です。



会計研究科の「学内 5 年一貫修了制度入試」は、商学部 4 年生のときに、当研究科が学部生に開放する科目（先取り科目）を 20 単位以上修得し、当研究科 1 年次において修得した単位と合わせて **合計 60 単位以上を修得**することにより、**当研究科を早期修了する制度**です。

学内 5 年一貫修了制度入試（7 月、10 月）出願資格

	基 準
共通	●2022 年度中に商学部を卒業見込の 4 年生 ●出願時において、110 単位以上を修得し、70 単位以上が「A」以上 ●先取り科目を、4 年生で 20 単位以上修得予定
会計専門コース	以下の①から④のいずれかを満たしていること ①公認会計士試験短答式試験に合格している者 ②税理士試験のうち 1 科目以上、科目合格している者 ③日商簿記検定試験 1 級に合格している者 ④会計学、商法、租税法、経済学（ミクロ経済学とマクロ経済学）に関する科目につき、24 単位以上が「A」以上
アクチュアリー専門コース	数学、統計学、数理経済学等の数理に関する科目につき、24 単位以上が「A」以上

5 年一貫修了制度のメリット

- ◆学部 4 年に「＋1 年間」で「会計修士（専門職）：MBA」の学位を取得できる
- ◆1 年間の在学中で、大学院における学費が半額で済む
- ◆所定の単位を修得して修了した場合には、公認会計士短答式試験 3 科目が免除される

留意事項

以下の場合、当研究科に 2 年以上在籍し、かつ 60 単位以上を修得することによって当研究科を修了することができます。
①入試合格後、学部在籍中に当研究科の先取り科目を 20 単位以上修得できなかった場合
②先取り科目による単位と当研究科 1 年次において修得した単位の合計が 60 単位に満たない場合

会計研究科入学案内

■会計研究科について

会計研究科は、会計、アクチュアリーのプロフェッショナルを養成するための専門職大学院で、「会計専門コース」、「アクチュアリー専門コース」と「高度専門コース」の3つのコースがあります。会計専門コース、アクチュアリー専門コースは2年制で所定の60単位を修得することで修了となります。高度専門コースは1年制で所定の48単位を修得し、専門職学位論文を提出し、合格した者が修了することとなります。いずれも「会計修士(専門職)」、Master of Business Administration」の学位が授与されます。

デジタル化やグローバル化が進むビジネスの世界では、会計やアクチュアリーといった、自らのコアを持つことにとどまらず、「+1(プラスワン)」の強みを持つことが付加価値を高めます(図1)。当研究科の幅広い「文理融合」のカリキュラムのもとで、皆さんの「会計+1」や「アクチュアリー+1」をみつけてください。

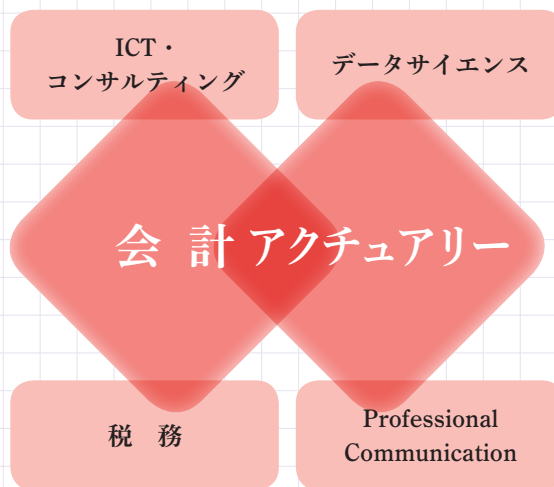
「プラス1」とともに、大手コンサルティング企業・監査法人等からの提携講座(2022年度12講座、図2参照)など、カリキュラムを進化させて続けています。

学部で学んだことをより高め、グローバルビジネスで戦う武器を会計研究科で身につけてください。

■入試について

会計研究科の入試は、それぞれのコースの一般入試に加え、特色ある入試があります(表1)。商学部生の皆さんは、主に全学部生を対象とした学内推薦入試、学内AO入試、学内5年一貫修了制度入試、飛び級入試、一般入試が対象となります。入試日程等は会計研究科入試要項をご参照ください(会計研究科WebサイトでもPDFで参照できます)。また、個別相談会を含む入試説明会を定期的に実施しており、入試説明会では入試、カリキュラムについての他、模擬講義や在校生または修了生講演を行うこともあります。個別相談会では教員、在校生、修了生が皆さんからの質問を個別にお受けし、会計研究科への進学を検討するにあたり様々な相談につきまして親身に応じることを心掛けております。どうぞご利用ください。日程は会計研究科Webサイトでご確認ください。

★図1 付加価値を高める+1(プラスワン)



★図2 大手コンサルティング企業・監査法人等による提携講座

1 CFOの組織の未来像 デロイト トーマツ コンサルティング合同会社	2 事業再生実務 株式会社 KPMG FAS	3 経理部門における 内部統制とガバナンス実務 ジャパン・ビジネス・ アシュアランス株式会社
4 生命保険の理論と経営 公益財団法人 アジア生命保険振興センター	5 CRM実務 デロイト トーマツ コンサルティング合同会社	6 事業承継コンサルティング 入門・実践 株式会社野村資産承継研究所
7 グローバル企業への タックスコンサルティング EY税理士法人	8 金融機関のガバナンス・ リスク管理・コンプライアンス EY新日本有限責任監査法人	9 グローバル会計入門 PwCあらた有限責任監査法人
10 会計・監査の最新実務 有限責任 あずさ監査法人	11 IPO実務 太陽有限責任監査法人	12 ESG・サステナビリティ 開示入門 Mazars有限責任監査法人

★表1 入試概要

	一般入試	特色ある 入試	学内推薦 入試	学内AO 入試	学内5年一貫 修了制度入試
会計専門コース/ アクチュアリー 専門コース	筆記・ 口述	英語力重視* IT能力重視* 社会人 経験重視 飛び級	口述試験	口述試験	口述試験
高度専門コース	口述試験				

※会計専門コースのみ

商学部生の内部進学について

■学部・会計研究科5年一貫修了制度：学内5年一貫修了制度入試のみ対象

一定の条件をクリアした希望者については【1年間の在学中で修士学位が得られる】ようになりました。

■先取り履修制度：商学部4年生以上のみ対象

会計研究科の基礎科目など一部科目を、商学部4年生以上を対象に先取りで履修できる制度を設けています。修得した単位については、会計研究科に進学した後に修了要件算入単位として申請可能となります。

■入学前予約採用給付奨学金

会計研究科が指定する入試形態における合格者のうち、入試成績優秀等である方を対象とした給付型(返還の必要のない)奨学金です。奨学金の採用結果は入試の合格発表と共に通知し、入学後に奨学金が支給されます。

大学院会計研究科への進学

私の院生生活 1 (専門職学位課程)

会計研究科へ進学を決めた理由

私が会計研究科(会計研)への進学を決めた理由は、「会計+1」のコンセプトに魅力を感じたからです。会計+1とは、会計の知識に加えて税務や英語、データサイエンスやICT・コンサルティングなど他の領域について得意分野を持ち、強みにしていこうというものです。会計研には、これを実現するための様々な講義が用意されています。

学部在学中の合格がかなわず自信を無くしていた私にとって、公認会計士としてブラスアルファの強みを持つというコンセプトは大変魅力的でした。大学院入学後は、グローバルに活躍できる会計士になるため英語でのビジネスコミュニケーションを学ぶ入門的な講義からAnnual Reportを用いたゼミ形式の講義まで、幅広く受講しました。大学受験以降あまり英語に触れておらず不安もありましたが、入門から応用まで様々なレベルの講義が用意されている点もとても心強かったです。

会計研究科で得たもの

商学部を卒業後、会計研に進学し1年次に短答式・論文式試験の合格ができませんでした。会計研の講義では基準設定の背景や現在・将来の動向などと合わせて会計論点を学び、より深く体系的に知識を習得することができました。短答式・論文式を控えていた1年前期においては試験に関わる科目を中心に履修し、しっかりと準備をした上で試験に臨むことができました。合格した現在は、IFRSや英語の授業などを履修し、修了生としての強みを持てるよう勉学に励んでいます。

また会計研にはワークショップ科目が多数用意されており、特に横断的な理解が求められる論文式試験においてこれらは非常に有意義でした。ワークショップでは会計の基本的な考え方と各論点の繋がりについて、先生方や周りの学生たちと時には国際間の比較を交えながら議論を交わします。自分の考えを説明し、それについて先生方からフィードバックをいただけることは日々の勉強でインプットした知識を整理し、理解を深めるために非常に役立ちました。

そしてなにより、会計研には他大学出身者や社会人、留学生など様々なバックグラウンドを持った学生が在籍しています。そのよう



■会計研究科
会計専門コース2年
穂苅 歩未

な友人たちと議論を交わし、試験に向けて切磋琢磨できたことは何ものにも代えがたい経験であり、今後働く上での糧になると思います。

進学を検討している方へ

会計研では、会計士試験合格のための知識に加え、合格後に会計士として幅広い領域で活躍できる強みを身につけるための、様々なカリキュラムが用意されています。また必修科目が少なく自由度の高いカリキュラムとなっているため、自分に合った時間割設計も可能です。会計研への進学は試験勉強中の方はもちろん、既に合格した方も会計士としての価値を高めるためにとても良い選択肢だと思います。説明会・相談会にぜひ足を運んでみてください。入学して1年以上が経ち、会計研で充実した学生生活を過ごすことができおり、非常に良かったと実感しています。会計研に興味があるという方は説明会にぜひ参加して、先生方や先輩方に話を聞いてみてほしいと思います。

私の院生生活 2 (専門職学位課程)

会計研究科へ進学を決めた理由

私が会計研究科(会計研)へ進学を決めた理由は、会計研のコンセプトである「会計+1」に魅力を感じ、大学院生としての2年間で自らの付加価値を高めた上で社会に出たいと考えたからです。

まず会計研を知ったきっかけですが、学部生時代に所属していたゼミの指導教授からの紹介でした。それまで大学院へ進学するという選択肢は私の中に無かったので、進学することに対して少し躊躇いがあったのですが、説明会に参加し話を聞く中で、会計研の「会計+1」というコンセプトに魅力を感じました。「会計+1」とは、会計の専門知識に加えてコンサルティングやデータサイエンス、税務などといった会計に隣接する専門領域分野を修得することで、自らの付加価値を高めていくというものです。昨今の技術革新や企業のグローバル化などにより、会計専門家として求められる像は以前と比較して変化しています。こうした社会的需要がある中で、会

計専門家として他と差別化を図るためには、会計以外の武器を併せ持つことが重要になってくると考え、会計研への進学に至りました。

会計研究科の特徴

会計研の特徴として、授業の豊富さが挙げられます。ケーススタディを用いたプレゼンテーションやディスカッションを通して、これまでに得た知識をより実践的な場面で利用するためのトレーニングを行うワークショップ科目や、コンサルティング企業・監査法人等による提携講座など、大学院ならではの講義が多々あります。私自身、今学期はワークショップ科目を履修しているのですが、あるケースについて批判的・多角的に検討したり、ディスカッションを通して様々な価値観に触れたりすることで、より一層理解が深まっていると実感しています。一方で、自分の知識不足を痛感することもあり悔しい思いもありますが、その思いが学習意欲の増進に繋がっています。

また学習に専念するための環境が整えられていることも、特徴のひとつです。設備としては、一日中使用できる大学院生専用の自習室や、個人ロッカーが整備されています。

入学してまだ日が浅いですが、同じ目標を持った同志たちと切磋琢磨し、充実した



■会計研究科
会計専門コース1年
伊藤 昂

大学院生生活を送ることができています。

進学を検討している方へ

全国的にみて数少ない会計大学院の中でも、会計研はトップクラスの講義と施設を提供する大学院であると考えます。そうした環境に身を置き、主体的に取り組むことで会計専門家としての素養を育み、自らの価値を高めることができると確信しています。

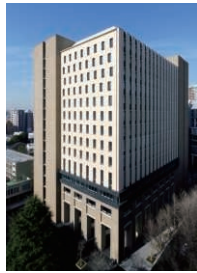
商学部所属する皆さんは、学内推薦入試や学内AO入試が可能であるため、他より近い存在だと言えます。会計研への進学に興味がある人はもちろんのこと、現時点で進学するという選択肢が無い人も、一度説明会に足を運んでみてください。私自身がそうであったように、新たな可能性がきっと見えてくるはずです。皆さんと会計研でお会いできる日を、楽しみにしています。

11号館（館内マップ）

「記憶」と「伝統」の架け橋

1938年に商学部出身者の寄附により建てられた旧11号館から、70年以上の時を経て、2009年に現在の11号館が竣工しました。11号館は、地下2階地上14階建てであり、延床面積は34,225.75㎡、高さは68.5mあります。

注）各施設の利用時間は通常時の授業実施日の情報です。新型コロナウイルス感染症拡大防止のために開室時間など変更している場合があります。



※施設全体：11号館内
全てで無線LANの使用が可能です。

※ 館内の移動に関する注意事項

- 学生は原則エスカレータまたは階段を利用してください。
- 9号館寄りのエレベータ1基は、来客・教職員専用のため、学生の一切の利用を禁止します。
- 14号館寄りのエレベータ3基については、低層階（1階または2階）と高層階（9階以上の階）の間を直接移動する場合に限って、利用を認めます。
- エレベータ内は飲食禁止です。

■ 商学研究図書室

商学学術院の教員ならびに大学院生のための図書室です。学部生の利用には所定の手続きが必要です。



■ 馬蹄形教室

（福田秋秀記念教室、エムアウト記念教室）
通常の教室とは趣向の異なった馬蹄形の教室です。主に大学院の授業で使用します。

■ PC ルーム

- 計6室のコンピュータ・マルチメディア関連教室があります。
- 601、602、607、609教室：PC48台、プリンター2台
608、610教室：PC58台、プリンター3台
- ◆利用時間（601、602教室）：9:00～22:00（月～土曜日）
◆利用時間（607～610教室）：9:00～18:00（月～金曜日）
9:00～16:30（土曜日）
- ◆利用時の注意：オープン利用の場合のみ利用可能です。
授業中のPCルームは利用できません。



■ 大教室

- （天野為之*記念教室（501）、田中穂積**記念教室（505））
501・505教室はかつての講堂を想起させる木を多用したデザインの教室です。
- *天野為之先生…東京専門学校創立に参画し「早稲田四尊」の一人であり、1904年（明治37年）に初代商科長に就任。明治の三大経済学者の一人でもある。
- *田中穂積先生…1920年（大正9年）に呼称が商科から現在の商学部に変更された際の初代商学部長。第4代総長も歴任。



■ ラウンジ

- 西門側の2階入口から入ってすぐ、エスカレータ脇にあり、学生の交流の場として活用されています。窓際・中央・手前と室内は大きく3つのエリアに分けられテーブル・いすのタイプが異なり、目的に応じて使い分けることができます。
- ◆利用時間：8:00～22:00（月～土曜日）
◆設備：パソコン6台、約200席



■ 2階入口（西門側）

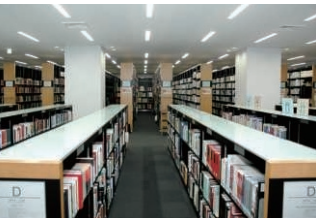
■ 防災センター

17:00以降のAV鍵の返却先はこちらです。
また、AEDも設置しています。



■ 学生読書室（頂新国際グループ記念学生読書室 / 商学部・国際教養学部学生読書室）

- 経営・会計・マーケティング・貿易・金融・経済といった商学に関する幅広い資料や雑誌・新聞・統計資料といった研究資料をはじめ、就職活動を支援する資料など幅広い学生のニーズに対応し、合わせて3万冊以上の資料が収蔵されています。
- ◆利用時間：9:00～22:00（月～金曜日）、9:00～18:00（土曜日）
◆利用方法：貸出期間は14日、貸出は5冊までです。



■ 商学系大学院自習室

- （11号館地下1階）
商学学術院に属する商学研究科、会計研究科および経営管理研究科の学生のための専用自習室です。
- ◆利用時間：8:30～22:20（月～土曜日）

■ アトリウム

- （岡田卓也記念アトリウム）
5階から8階を吹き抜けにし、「光」をテーマにした大規模な空間です。照明や温度を自然に近い状態になるよう自動調節しています。

■ 教室

- 5～9階には大小さまざまな教室やゼミ室・指導室があります。各教室ともAV機器が整備されておりプレゼンテーション用の機能などが充実しています。

■ エントランスホール

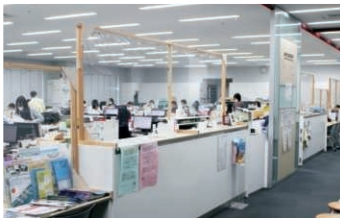
- （大和証券グループ記念エントランスホール）
入口を入ると1階・2階の2層吹き抜けの空間が広がっています。売店が併設されており、食べ物や飲み物などを購入することができます。

■ 入口

- 「記憶」と「伝統」を意図して旧11号館の入口部分を解体される以前と同じ場所・位置に再構築しています。

■ 閲覧室

- 商学部・国際教養学部共通閲覧室であり、学生が自由に読書を行うことが可能です。
- ◆利用時間：8:00～22:20（月～土曜日）



■ 商学学術院事務所

- （商学部・商学研究科・会計研究科・経営管理研究科）
事務所はエスカレータホールに面して配置しており、事務所向かい側には大型の掲示コーナーがあります。事務所内は入口から左側が商学部の受付です（右側は大学院の事務所）。
- ◆利用時間：9:00～17:00（月～土曜日）



平沼淑郎先生の銅像

第2代商学部長であった平沼先生は1938年に旧11号館が新築されるまで改築促進の寄付金募集の会長を務められました。しかし竣工のわずか2ヶ月前にお亡くなりになられ、その功績を称えるため銅像を設置し、新11号館へと引き継がれています。



エントランスホール外





■ 今号の表紙「完之荘」

「完之荘」(かんしろう)は、1952(昭和27)年校友の小倉房蔵氏(1908年商科卒)から早稲田大学へ寄贈された建物で、その名称は氏の雅号「完之」に因んだものです。建物の来歴は、氏が六十数年前、飛騨の山村に残っていた600～700年前と推定される古屋を渋谷の邸内に移築し日常静閑の座所として愛用したもので、現在は広間に一室と土間とがついた構えになっています。

この建物の特徴としては、半ば天然の栗材を柱とし、それらの柱はすべて直接礎石上に立っており、また囲炉裏、火鉢、自在鉤、縁先の手水や石門等は旧のままであることがあげられます。小倉氏の好意によって寄贈されたこの建造物は、由緒ある大隈庭園に一段の風致を添えるばかりではなく、建築学上貴重な資料でもあります。

現在、大学関係者だけでなく校友の方の会合の場として利用されています。

(『キャンパスがミュージアム vol.2《大隈庭園編》』より引用、一部編集)

商學部報 No.180

2022年6月28日発行

※本誌記事を無断で転載等する事を禁じます。

■発行責任者：横山 将義

■発行・編集：早稲田大学商学部 東京都新宿区西早稲田1-6-1

<https://www.waseda.jp/fcom/soc/>

■デザイン・印刷：(株)エムディーエス 東京都中央区日本橋箱崎町27-9 2階